

## 白嶽山頂部の危険箇所について(告知)

白嶽山頂部の危険箇所は、全ての登山者が危険と認識できる部分ではなく、安易に通過してしまう部分でもあります。そこで、スリップした場合、生命に関わる極めて重大な事故につながるケースとなります。



現在、**青丸部分**にアンカーとロープが設置されています。

この部分は、2mほどの岩場で、ロープなしでも比較的容易に登ることができます。**青部分**の下部は、テラス上になっています。この部分を余裕で登れない登山者は、山頂に登るべきではありません。基本的には、ロープの補助なしで登ります。

どうしても、ロープに頼る場合は、ロープの強度を安定した状態で確認(強い力で引っ張ってみる。)しなければなりません。その上で、鉛直上にあくまで補助的に加重して、くれぐれも手前に引っ張ることがないようにお願いします。

万が一、ロープから手がはずれて場合に、後部へ転倒する恐れがあります。

この部分にロープが設置されていなかった時は、ほぼ 100%の登山者が危険認識もないままに赤丸部分を登り下りしていました。下山時、スリップしたら、非常に高い確率で死亡事故につながると思われます。



人間と **ピンク印**は、ともに同じ位置です。いかに危険箇所に立っているかが分かります。



安全に被引率者をサポートする場合は、左の写真のように下部でサポートします。さらに、安全を求める場合は、引率者が山頂部で、ロープ確保します。

技術的には、**赤丸部分**は、歩いて下れるほど容易ですが、つまずきでもすれば、断崖を滑落して致命傷につながりかねません。

**赤丸部分の危険認識が、登山経験が少ない者にはありません。****青丸部分**のロープ設置の関係で、以前よりも**赤丸部分**の安易な通過は減少していると思われますが、登山者が多い場合には、以前として**赤丸部分**の通過が安易に行われていると予想されます。



山頂部が狭いために、一度の大人数での登頂は非常に危険です。

大人数での登頂は、時間を要するために、**赤丸部分のからの安易な登り下りにつながります。**

2010 年11月現在、山頂部の石積みは、撤去されていますが、山頂手前の広場付近の展望のよい岩場には、まだケルンが残っています。直下が登山道となっていますので、注意が必要です。